

令和5年度自治体立優良病院総務大臣表彰 受賞記念冊子



出かける医療 近づく医療



日野病院組合

日野病院

総務大臣表彰受賞のお知らせ

日野病院組合日野病院は自治体優良病院総務大臣表彰を受賞しました。昨年の自治体優良病院会長表彰に続き更なる栄誉に輝き、職員一同大変光栄に存じます。受賞は地域の皆様、医療機関、福祉施設、3町と鳥取県のご協力と信頼の賜物です。全国857の自治体病院の中から受賞した6病院の一つに選ばれ、鳥取県では2番目となります。他の5病院が都市部の大病院であるのに対し、当院は医療環境の厳しい中山間地に

位置する99床の小病院でありながら選ばれたことを誇りに思います。当院の特徴は、地域のかかりつけ病院として住民の健康管理を担うこと、在宅医療を推進し、地域医療の教育病院として人材育成に努めています。また、新型コロナ対策では保健所、役場、県庁と連携した取り組みも評価されました。今後も地域の皆様に選ばれる病院を目指し、職員一同努力してまいります。皆様のご支援とご協力に心より感謝いたします。



日野病院長 孝田 雅彦



[祝　辞]



鳥取県知事 平井 伸治

日野病院におかれましては、自治体立優良病院としての総務大臣表彰、心よりお祝い申し上げます。孝田病院長はじめ歴代の役職員、日野病院組合関係者の御尽力に深く感謝申し上げます。

います。心よりお祝い申し上げます。

貴院は、日野周辺地域の多様な医療ニーズに寄り添い、拠点病院としての責務を果たしてこられました。また地域医療教育を行う体制整備にもご尽力いただき、地域に必要とされる『総合診療専門医』の育成も進んでおります。

本院も引き続き連携を深め、充実した地域医療の学びと切れ目のない医療提供に努めていきたいと存じます。

今後とも変わらぬご支援を賜りたく、貴院のさらなるご発展を祈念申しあげます。

鳥取大学医学部附属病院長

武中 篤

この度は「自治体立優良病院総務大臣表彰」のご受賞、誠におめでとうござ

地域を支える中核病院として、救急医療から在宅医療、新型コロナ対応まで幅広く、住民の命と健康と暮らしを守る使命を果たし、健全な病院経営も確立されたなど、全国のモデル病院として躍進を遂げられました。

人口減少と少子高齢化や、中山間地域の課題が深まる中、今後益々日野病院の役割は重大なものとなってきます。鳥取県としても引き続き医療人材確保などあらゆる面で支援してまいります。

結びに、日野病院の益々の御発展と、関係各位、住民の皆様の御健勝、御多幸をお祈り申し上げます。





令和5年度自治体立優良病院総務大臣表彰 受賞記念対談

鳥取大学医学部 地域医療学講座 教授

谷口 晋一 氏

日野病院 病院長

孝田 雅彦 氏

たにぐち・しんいち 1985年鳥取大学医学部卒、病態情報内科学(旧第一内科)入局。2005年に地域フィールド調査「鳥取-江府スタディ」開始、江尾診療所での生活指導介入などに従事。2014年に鳥取大学地域医療総合教育研修センター(日野病院)を開設し、医学生教育、総合診療医の育成を行う。2010年から現職。62歳、鳥取県出身。

こうだ・まさひこ 1984年鳥取大学医学部卒。1989年同大学院医学研究科修了。2015年鳥取大学医学部附属病院消化器内科科長、鳥取県肝疾患相談センター長併任。2016年から現職。64歳、大阪府出身。

日野病院の未来を語る

鳥取県西部の中山間地域に位置する日野、江府、伯耆の3町で構成する日野病院組合「日野病院」(鳥取県日野町野田、99床)が、2023年度の自治体立優良病院表彰で総務大臣表彰を受けた。医師偏在化や少子高齢化に伴う人口減少など、地域医療を取り巻く環境が厳しさを増す中、健全経営を続け、住民に身近な「へき地医療拠点病院」の使命を果たす取り組みが高く評価された。日野病院の未来像について、孝田雅彦病院長と、総合診療医を育成する鳥取大医学部地域医療講座の谷口晋一教授が語り合った。

**新型コロナ対応で機能したへき地医療
拠点病院の強み**

孝田 新型コロナウイルス感染拡大では自治体の要請で病床確保や患者の受け入れ、新築した発熱外来棟で24時間対応のPCR検査や診察などに当りました。そこで「一番感じたのは、住民の「かかりつけ医」として当院が果たすべき役割的重要性です。

かかりつけ医は、普段から健康に関する相談ができる、必要な時は専門の医療機関を紹介してくれる身近で頼りになる医師のことです。当院が

地域住民の健康管理を受け持ち、病院としてかかりつけ機能を充実させれば、生活習慣病など基礎疾患の有無などを包括的に把握でき、重症化リスクを評価し新たな感染症が出現しても対応しやすくなります。その意味でも、地域住民の皆さんにはぜひ、かかりつけ医を持って頂きたいたいと思います。

もちろん課題も浮き彫りになりました。その一つが、コロナ禍で深刻化した看護師不足です。感染拡大で一時的に病棟が回らない事態になつたことから、さまざまなか場面で中心となつて対応できる感染

管理認定看護師の確保が急務になりました。

一方で近隣の病院や診療所との連携が強まり、PCR検査機器の貸与やコロナ病床の効率的な運用に生かすことができました。ワクチン接種や発熱外来利用の呼び掛けでは、行政との密な連携ができ、医療資源の乏しい中山間地域の病院と自治体の在り方に石を投じたと思います。



谷口 日野病院には2014年に開設された鳥取大学

地域医療総合教育研修センターがあり、臨床実習をはじめ卒後の研修医や看護学生、リハビリ学生ら実習生などを含めてこれまで延べ650人以上を受け入れています。

他ではコロナ禍で医学生教育ができないなど影響が出ましたが、日野病院はしっかりと受け入れています。

たコロナ対応の機能が十分働いていると思っています。

私は以前から日野病院と病診連携を深めている江尾診療所（鳥取県江府町江尾）にも関わっています。コロナ禍では感染に伴う重症化リスクを抱え、不安な日々を過ごす在宅療養の患者さんなどもいました。

そこで実現させたいと思うことの一つが、当院の医療圏に暮らす20～50代の年齢層へのアプローチです。この層を取り込むためには、提供する医療の質と中身で選んでもらえる病院になる必要があります。

現在、当院の外来患者（22年度約4万5千人）、入院患者（同約2万9千人）の約7割は65歳以上です。20～50代の患者さんが抱える高血圧や糖尿病など基礎疾患だけでなく、

何気ない生活の中に潜むリスクを勘案しながら対処されている点は、まさにかかりつけ医機能を重視されている日野病院の強みではないでしょうか。

住民に寄り添う「かかりつけ病院」の実現で地域医療守りたい

多くのは、医療機関が多い米子市内の職場に通つており、検診や受診の場合、どうしても市内の病院やクリニックに流れています。

当院は先進的なコンピューター断層撮影（CT）や磁気共鳴画像装置（MRI）による各種検査を提供し、がんの早期発見などに注力していますが、心疾患や脳神経疾患など弱いところもあります。

もう一つは、患者さんやその家族の希望に合った切れ目のない医療・介護・支援の提供です。退院後は自宅療養がいいのか、施設入所がベストなのか、施設入所がベストなのではなく、家庭環境に応じて複数のパターンを示し、どれが最適な選択なのかを提示し、一緒に知恵を絞る仕組みができ



れば、と思います。そのためにも患者さんが若いときや健康新たにからずつと関われる病院であります。

総合診療医と専門医の連携で人材不足補う仕組みづくり必要

谷口 中山間地域の病院

は総じて深刻な医師不足に直面しています。かつて大学病院の各医局から派遣された若い医師は、必修化された初期臨床研修制度(4年)によって自ら研修先を選び、臨床を通して知識やスキルを得できるようになりました。

このため、少子高齢化の進展で患者が高齢者に偏り、疾患の種類も限られる傾向の中山間地域の病院は敬遠されがちで、大学医局の医師派遣機能の低下もあって医師確保は難しくなっています。

日野病院のようなべき地医療拠点病院は予防、がんの早期発見、術後の経過観察や化學療法のフォローなど一連の流



孝田 今

枠組みの中でしっかりと指導できる教育環境を整え、特徴や長所を発信することで肝心です。

もちろん専門医の診察が必要なときは、速やかに大学病院などに紹介することになります。専門医の指導があれば総合診療医も判断に悩まずに済みます。

谷口 昨年、鳥取県で初め

れば、患者さんの医療ニーズに応じられるケースが多くなると思います。

もちろん専門医の診察が必要なときは、速やかに大学病院などに紹介することになります。専門医の指導があれば総合診療医も判断に悩まずに済みます。

ただ、総合診療医は全国で年間300人弱しか希望者がいない新しい分野です。医学が抱くキャリア形成への不

れの中で患者に寄り添い、生活を含めて包括的な視点からケアを施しています。こうした長い時間軸の中で患者に接することは、大学病院では非常に難しいのです。いわば地域医療を担う「プライマリ・ケア(総合的に診る医療)」の現場があり、専門医との連携や役割分担を学ぶことができます。

若い研修医に選ばれる病院になるためには、外来診療や入院診療は当然のこと、在宅医療や行政連携の健康講座、予防、リハビリなど包括的な

多くの専門医の確保です。全ての専門医をそろえるのは容易でなく、それを補うことができるような臨床プログラムの構築を望みます。

例えば、当院の総合診療科で診療に当たっている総合診療医(地域に住むあらゆる年齢、性別の患者さんの健康問題に向き合って治療を行う医師のこと)が、米子市内の大学病院や総合病院の小児科などの専門科で研修を積み、専門診療科に必要な一定の医療技術を習得、研修後の外来診療や治療に生かすことができ



安を取り除き、希望者を増やすためのロールモデルの創出が待たれています。

孝田先生が指摘された人材不足について言えば、中山間地域で各診療科をフル装備することは非現実的です。そ

ろえても見合うだけの需要はなく、コストばかりが膨らみます。週に数日、専門医が診察・治療に当たり、常勤医として数名の総合診療医がカバーできる体制が整えば、かなりの医療ニーズに対応できるでしょう。

新たな病院・病診連携 を生み出す スマート医療構想

孝田 中山間地域の限られ

た医療資源を有効活用し、持続可能な地域医療を実現するためには、新たな病病連

携や病診連携の形成が欠かせません。その手段として考

ているのが、ICT（情報通信技術）を用いたスマート医療構

想です。



具体的には、県西部の複数の病院や診療所で電子カルテシステムを統一し、「一人一人の患者さんの医療情報が共有できる仕組みを作りたい」と願っています。現状は導入された個々のシステムが違うため、相互にアクセスできない状態です。日野病院を受診された新規の患者さんの検査データは、近隣の病院ですぐに見ることができます。

谷口 医療情報の統合、集

約化の意味では指摘の通りだと思います。ただ具体化には新たな投資も必要になり、関係自治体や地域住民、各医療施設で働く関係者も含めた合意形成が求められるでしょう。

いずれにせよ、医師の取り合いは不毛です。それぞれの医療機関が役割分担を明確にしたうえで連携して議論を深め、持続可能な地域医療の未来を描く不斷の努力が求められています。



地域の皆様の健康を支えたい

訪問看護 出かける医療 近づく医療

総合医療の提供

職員住宅完備 スキルアップできる環境

日野病院組合 看護師募集 日野病院組合 検索

日野病院組合 看護師募集 日野病院組合 検索

日野病院組合 看護師募集 日野病院組合 検索

日野病院組合 看護師募集 日野病院組合 検索



受付時間・診療時間

■受付時間

区分	受付時間
午前	07:30~10:30
午後	12:00~16:00

■診療時間

区分	診療時間
午前	09:00~
午後	14:00~

各診療科により異なります。詳しい受付時間・診療時間は以下の方法でご確認いただけます。

- 日野病院ホームページの診療案内
- 病院内で配布している「日野病院外来診療案内」
- 広報誌「せせらぎ」
- 日野病院に電話で問い合わせ(TEL:72-0351)

■電話による予約受付

予約受付時間	14:00~16:00
新規登録・新規予約	72-0351(代表)
予約日(時間)変更	内科 血液内科 消化器内科 禁煙外来 呼吸器内科 脳神経内科 糖尿病外来 72-2721
	外科 72-2719
	整形外科 皮膚科 泌尿器科 耳鼻咽喉科 72-2720



日野病院組合
日野病院

〒689-4504

鳥取県日野郡日野町野田332番地

TEL:0859-72-0351

FAX:0859-72-0089

<http://www.hinohp.com/>

※無料駐車場完備

